

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年07月12日

計画の名称	鉄道駅周辺の交通環境整備による利便性の向上												
計画の期間	平成30年度 ~ 令和04年度 (5年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	大野城市,春日市												
計画の目標	鉄道駅などの建設を伴う西鉄天神大牟田線連続立体交差事業(春日原~下大利)と一体となってアクセス道路の整備、駅前広場の整備を行うことにより、周辺市街地の交通の利便性を向上させ地域の活性化を図る。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	2,132	A	2,132	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H30当初)	中間目標値 (H32末)	最終目標値 (H34末)
1	西鉄天神大牟田線(春日原駅~下大利駅)間の駅における平均乗車人員を223百人/日から増加させる 鉄道駅乗車人数の増加 西鉄天神大牟田線(春日原~下大利)連続立体交差事業と一体で駅のアクセスや利便性を高め、鉄道駅乗車人数を増加させる。	223百人/日	227百人/日	231百人/日
2	西鉄天神大牟田線(雑餉隈駅~下大利駅)間の駅利用に関する満足度を45%から向上させる 駅利用者の満足度 県民を対象にしたアンケート調査により西鉄天神大牟田線の春日市・大野城市の駅利用の快適性に対して満足とする割合を計測する。	45%	46%	46%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容(延長・面積等)	市区町村名/港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	大野城市	直接	大野城市	S街路	新設	下大利駅地区	結節点改築 0.68km	大野城市						535	-	
	A01-002	街路	一般	大野城市	直接	大野城市	S街路	改築	白木原駅地区	結節点改築 0.74km	大野城市						424	-	
	A01-003	街路	一般	大野城市	直接	大野城市	S街路	改築	春日原駅前線	改築 0.15km	大野城市						20	-	
	A01-004	街路	一般	春日市	直接	春日市	S街路	改築	西鉄天神大牟田線(春日原~下大利)地区(春日市)	連立関公 0.76km	春日市						1,153	-	
											小計						2,132		
												合計						2,132	

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
各事業主体が定量的指標ごとに行う目標達成度調査を基に福岡県が実施する。	計画期間（H30年度～R4年度）の翌年度
	公表の方法 計画作成主体のホームページ
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	西鉄天神大牟田線連続立体交差事業（春日原～下大利）と一体となってアクセス道路、駅前広場の整備を行うことにより駅乗車人数の増加が図られた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	西鉄天神大牟田線連続立体交差事業（春日原～下大利）と一体となってアクセス道路、駅前広場の整備を行うことにより駅利用の快適性の向上が図られた。
特記事項（今後の方針等）	
事後評価を踏まえ、次期計画（R5～R9）ではアクセス道路、駅前広場を完成させ、駅乗車人数を増やししながら、より快適性を向上させる。	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	鉄道駅乗車人数	
	最終目標値	231百人/日
	最終実績値	232百人/日
2	駅利用の快適性に対する満足度	
	最終目標値	46%
	最終実績値	57%